

参考例

気密測定器「ドクタードルフィン」検査ドック報告書

検査ドックのご依頼ありがとうございます。
検査結果は以下のとおりです。
2006年**月**日

EOM株式会社
荏原・細川
静岡県浜松市長鶴町158-1

依頼者	会社名: *****株式会社 所在地: *****
検査項目	気密測定器の検査
対象装置	住宅気密測定器「ドクタードルフィン」OMAT-2000 製造番号: F-*****
検査方法	単体検査: 1)外観検査: 測定器として支障ある損傷・変形の有無を確認します。 2)最大風量検査: 単体でファン最大運転時における風量表示値を確認します。 3)最大圧力検査: 単体でファン最大運転時における{動圧・差圧}表示値を確認します。 4)温度検査: 成り行き室温または外気温における温度表示値を確認します。 風量検査: 試験用風道を挟んで基準器と検査対象器を直列に接続、両器のファンを運転、同時に風量を測定、そして、基準器と検査対象器の風量を比較します。 気密検査: 試験用風道を挟んで基準器と検査対象器を直列に接続、基準器のファンを運転、同時に気密性能 Aを測定、そして、基準器と検査対象器の Aを比較します。
検査結果	単体検査: 1)外観検査: 測定器として支障ある損傷・変形はありません。 2)最大風量検査: 2356m ³ /hは定格最大風量2400m ³ /h-10%以上にて”合格” 3)最大圧力検査: 最大動圧252.5Paは定格最大動圧250Pa-10%以上にて”合格” 最大動圧249.9Paは定格最大動圧250Pa-10%以上にて”合格” 風量検査: 検査対象器 風量の偏差 = -1.9% 検査対象器の測定精度は5%以内にて”合格” 気密検査: 検査対象器 気密性能 Aの偏差 = -1.2% 検査対象器の測定精度は±5%以内にて”合格”
検査期間	2006年**月**日~**日
担当者	EOM株式会社 ***** *****
検査場所	EOM株式会社 試験室

気密測定器ドクタードルフィンの検査1： 単体検査 参考例

外観検査

1) 検査目的

数値で見る検査結果以外、例えば部品が変形しているなどで、本検査および現場測定に支障がでることを防ぎます。

2) 検査結果

目視などにより、測定に支障ある損傷・変形の有無を確認します。

3) 検査結果

検査日: 2006年**月**日 担当者: *****



銘板シールを確認。
製造番号はF - 001104



動圧(風量)測定用ピトー管
損傷・変形なし。



動圧測定用ピトー管接続部
損傷・変形なし。



ファン・羽根
損傷・変形なし。回転もスムーズ。



操作計測部
損傷・変形なし。

最大風量検査

1) 検査目的

最大風量を検査することにより、ファンの劣化程度を確認します。

2) 検査方法

単体でファン最大運転時における風量表示値が定格最大風量2400m³/h - 10%以上であることを確認します。

3) 検査データ

検査日: 2006年**月**日 担当者: *****

最大風量検査データ

検査	検査データ [m ³ /h]
1回目	2370
2回目	2355
3回目	2344
平均値	2356

補足: 試験電源AC100V60Hz



4) 検査結果

検査結果の平均は、2356m³/h

定格最大風量2400m³/hとの差は、-44m³/h、-1.8%

検査対象器の最大風量は定格風量の - 10%以上にて”合格”

最大動圧検査

1) 検査目的

最大動圧を検査することにより、動圧測定用圧力センサに異常ないことを確認します。

2) 検査方法

単体でファン最大運転時における”動圧”表示値が定格最大動圧250Pa - 10%以上であることを確認します。検査は最大風量検査と同時です。

3) 検査データ

検査日: 2006年**月**日 担当者: *****

最大動圧検査データ

検査	検査データ [Pa]
1回目	255.4
2回目	252.1
3回目	249.9
平均値	252.5

補足：試験電源AC100V60Hz

4) 検査結果

検査結果の平均値は、252.5Pa

定格最大動圧250Paとの差は、+0.5Pa、+1%

検査対象の最大動圧は定格動圧の-10%以上にて”合格”

最大静圧検査

1) 検査目的

最大静圧を検査することにより、静圧測定用圧力センサに異常ないことを確認します。

2) 検査方法

静圧測定用チューブを動圧測定用ピトー管に接続し、ファン最大運転時における”静圧”表示値が定格最大静圧250Pa-10%以上であることを確認します。

3) 検査データ

検査日：2006年**月**日

担当者：*****

最大静圧検査データ

検査	検査データ [Pa]
1回目	249.1
2回目	251.2
3回目	249.4
平均値	249.9

補足：試験電源AC100V60Hz

4) 検査結果

検査結果の平均値は、249.9Pa

定格最大静圧250Paとの差は、-0.1Pa、-0.2%

検査対象の最大静圧は定格静圧の-10%以上にて”合格”

表示温度検査

1) 検査目的

表示温度を検査することにより、温度測定部に異常ないことを確認します。

2) 検査方法

検査対象器の温度センサを基準器の温度センサと比較して、±1 以内であることを確認します。

3) 検査データ

検査日：2006年**月**日

担当者：*****

表示温度検査データ

検査	基準器			検査対象器			
	外気温度 []	室内温度 []	平均値 []	外気温度 []	基準比較 []	外気温度 []	基準比較 []
1回目	33.4	33.3	33.4	32.7	-0.6	32.7	-0.6
2回目	33.5	33.3	33.4	32.7	-0.7	32.7	-0.7
3回目	33.3	33.2	33.3	32.9	-0.4	32.9	-0.4
平均値	33.4	33.3	33.3	32.8	-0.6	32.8	-0.6

補足：検査データは、気密性能 A検査時のものを使用。

4) 検査結果

検査対象器の表示温度は基準器と比較して±1 以内にて”合格”

以上

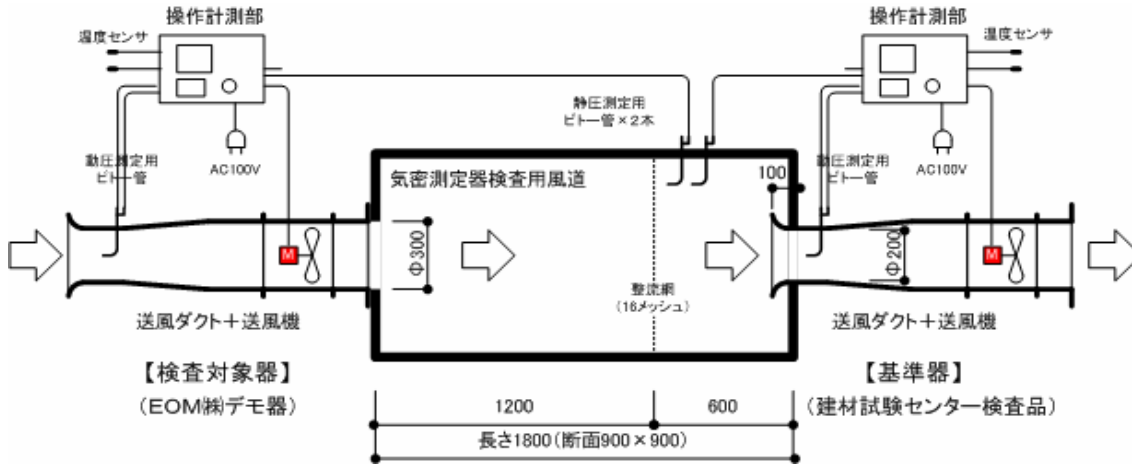
風量検査

1) 検査目的

風量を幅広い範囲で測定することにより、ファン・送風ダクト・動圧測定部・データ処理に異常ないことを確認します。

2) 検査方法

検査用風道を挟んで基準器と検査対象器を接続、両器のファンを運転、同時に風量を測定し、検査対象器の風量表示値の偏差が±5%以内であることを確認します。



3) 検査データ

検査日: 2006年**月**日

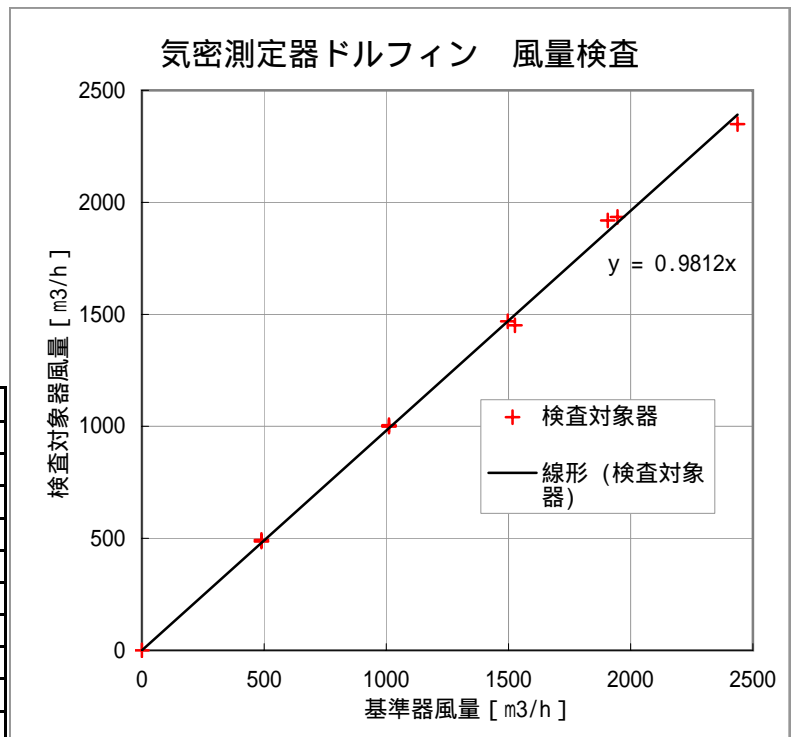
担当者: *****



風量検査データ

風量設定	検査風量 [m ³ /h]		
	基準器	検査対象器	比率
最大	2437	2349	0.96
目標2000	1906	1919	1.01
"	1946	1935	0.99
目標1500	1526	1451	0.95
"	1497	1469	0.98
目標1000	1011	999	0.99
"	1011	1005	0.99
目標500	489	493	1.01
"	489	486	0.99
目標0	0	0	- - -

補足: 試験電源AC100V60Hz



4) 検査結果

検査結果の近似式 $Y = 0.9812 \cdot X$

検査対象器の基準器に対する偏差率 = $(0.9812 - 1) = -0.0188$ - 1.9%

検査対象器の測定精度は±5%以内にて”合格”

以上

気密測定器ドクタードルフィン の検査3 : 気密性能 A検査 **参考例**

気密性能 A検査

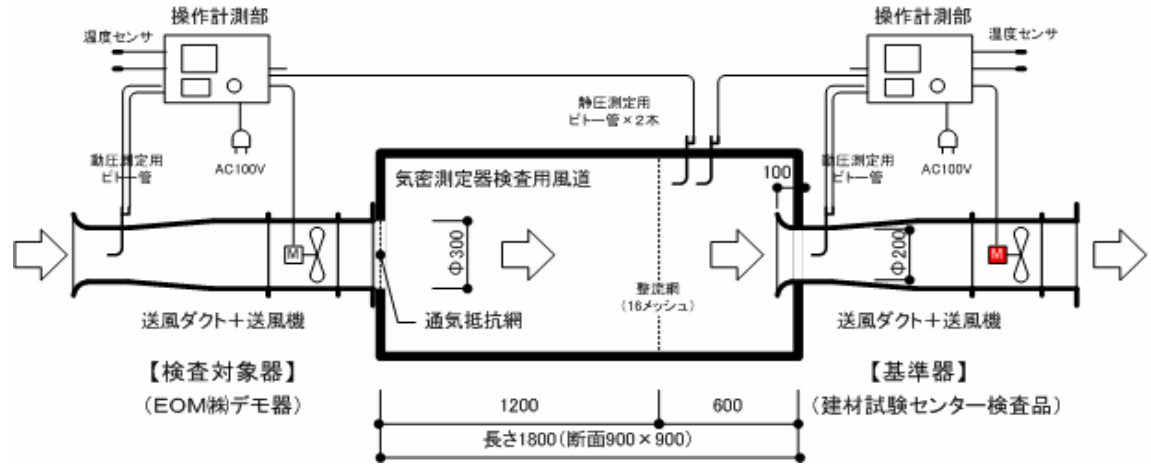
1) 検査目的

気密性能 Aを測定することにより、動圧測定部・静圧(内外差圧)測定部・データ処理に異常ないことを確認します。

2) 検査方法

検査用風道を挟んで基準器と検査対象器を接続、基準器のファンを運転、同時に気密性能(A)を測定し、検査対象器の気密性能 A測定値の偏差が±5%以内であることを確認します。

検査用風道の入り口側には、すき間特性値nがおよそ1.5~1.9になるよう調整した通気抵抗網を取り付け、気密性能 Aが一般的な住宅と同等に測定できるようにします。



3) 検査データ

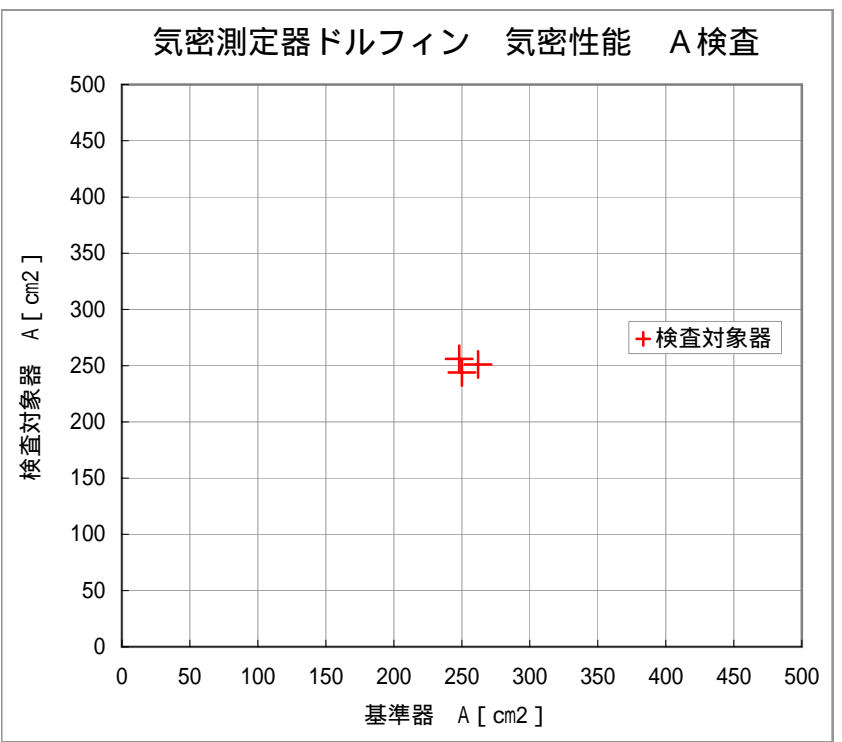
検査日: 2006年**月**日 担当者: *****



気密性能 A検査データ

検査	検査 A [cm ²]		
	基準器	検査対象器	比率
1回目	248	256	1.03
2回目	262	251	0.96
3回目	250	244	0.98
平均値	253	250	0.99

補足1: 試験電源AC100V60Hz
補足2: 気密性能 Aの各測定は各5点



4) 検査結果

検査結果の平均値は、基準器253、検査対象器250cm²
 検査対象器の基準器に対する偏差 = 250 - 253 = - 3cm²
 検査対象器の基準器に対する偏差率 = (250 ÷ 253) - 1 = 0.0119 - 1.2%
 検査対象器の測定精度は±5%以内にて”合格”

以上